


ピックアップ事例



うすき石仏ねっと（平成20年稼働）

うすき石仏ねっと運営協議会（大分県臼杵市：平成27年発足）

 0972-62-5615（受付時間 平日8:30～17:00） [公式ホームページ](#)

※令和2年2月時点

全体概要

- 概要
- システムの特徴
- 成功のポイント
- 構築する方へのメッセージ

計画Step

1. 地域課題、要求事項の抽出
2. 必要性の検討
3. 事業の成立と変遷
4. 事業運営主体の組織の設置
5. 個人情報保護方針などの作成
6. ガイドライン・標準化規格などの確認
7. システム化方針決定
8. 事業計画・収支計画の立案

構築Step

1. 工程管理
2. 仕様書作成・調達
3. 要件定義・設計
4. 構築

運用Step

1. 運用に向けた文書作成
2. システム運用保守体制決定
3. 参加機関の募集・説明・契約
4. 参加患者の手続き

全体概要

名称および運営体制	臼杵市地域医療・介護・保険情報連携システム うすき石仏ねっと 運営体制：臼杵市医師会、同歯科医師会、同薬剤師会、介護施設の代表、臼杵市が共同運営 運営団体代表：うすき石仏ねっと運営協議会 運営補助団体（事務局）：臼杵医師会・臼杵市
対象地域	大分県臼杵市 （市外では大分市、由布市、津久見市の3医療機関などが参加） 人口（2015年） 38,748人 人口増減率（2010～15年） マイナス6.56% 高齢化率（65歳以上 2015年） 37.80%
規模（参加施設数） （令和2年1月現在）	数字は稼働数（情報連携システムへの同意数）臼杵市内の施設総数 ・医療機関 25（29）32 ・保険薬局 17（17）18 ・歯科医院 18（18）19 ・福祉施設 6（6）6 ・訪問看護 2（3）3 ・介護事業所 20（21）21 ・公的機関 臼杵消防署 地域包括支援センター 臼杵市役所 大分県中部保健所 ・市民健康管理センター
沿革	平成15年 臼杵市医師会地域医療情報ネットワーク実験開始 （検査データ閲覧）

更改Step

	平成18年 臼杵市医師会情報化協議会設立 平成20年 平成19年度地域診療情報連携推進事業として「うすき石仏ねっと」稼働 平成25年 平成24年度在宅医療連携拠点事業として訪問看護連携開始 平成26年 調剤薬局連携開始 福祉施設および一部の介護事業所連携開始 平成27年 「うすき石仏ねっと運営協議会」発足 歯科医院連携開始 消防署通信指令室にて運用開始 平成28年 介護事業所連携開始 臼杵市役所保険健康課に端末設置 健診データ共有開始 平成29年 大分県中部保健所端末設置 平成30年 子育て支援アプリ（ちあほっと）運用開始 市外病院との連携開始
構築当初の主な関係者	(平成20年当時) 臼杵市医師会 臼杵市 臼杵市医師会立 コスモス病院 など
費用負担の概要	・ 初期費用：平成19年度地域診療情報連携推進事業 総事業費：80,850,000円 国補助：40,425,000円 医師会負担：40,425,000円 ・ 平成24～28年度の関連事業と初期費用も含めた総事業費 平成24年度在宅医療連携事業 平成25年度地域診療情報連携事業費 平成25年度地域医療再生施設整備事業 平成26年度地域医療再生施設整備事業 平成27年度地域医療再生施設整備事業 平成28年度補正クラウド型EHR高度化事業 総事業費：287,060,000円 補助（国・県）：211,634,000円 自己資金：75,426,000円 (協議会設立前に医師会負担分)

取材対応者（敬称略）

奥津明

一般社団法人 臼杵市医師会 副会長／うすき石仏ねっと運営協議会 会長

藤野孝雄

一般社団法人 臼杵市医師会 理事／医療法人 藤野循環器科内科医院 院長

下田勝広

一般社団法人 臼杵市医師会 理事／臼杵市医師会立コスモス病院 院長

舩友一洋

一般社団法人 臼杵市医師会 理事／うすき石仏ねっと運営協議会 運営委員長
臼杵市医師会立コスモス病院 副院長

小野清史

一般社団法人 臼杵市医師会 情報管理センター センター長

小名川良輔

臼津歯科医師会 専務／こながわ歯科医院 院長

神田秀一郎

臼津薬剤師会 理事／萬里薬局 取締役専務／薬剤師

杉野等

臼杵市役所保険健康課 課長

庄司哲宏

臼杵市消防本部 警防課長 消防指令 救急救命士

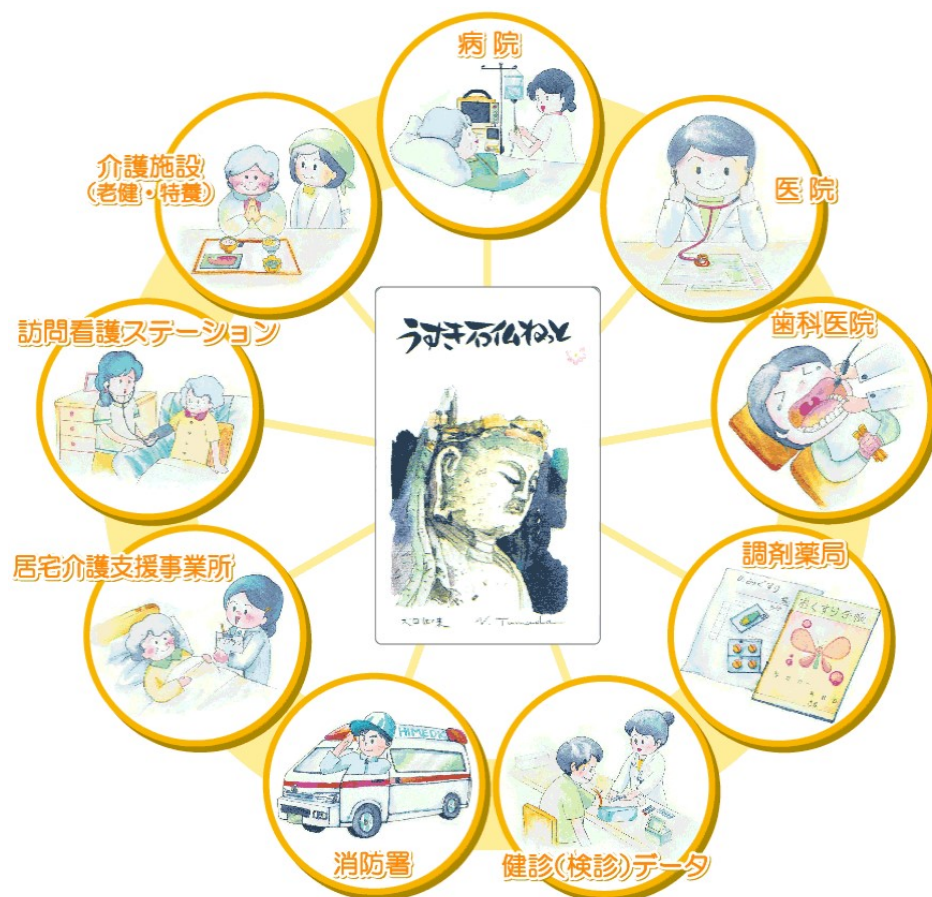
神田孝二

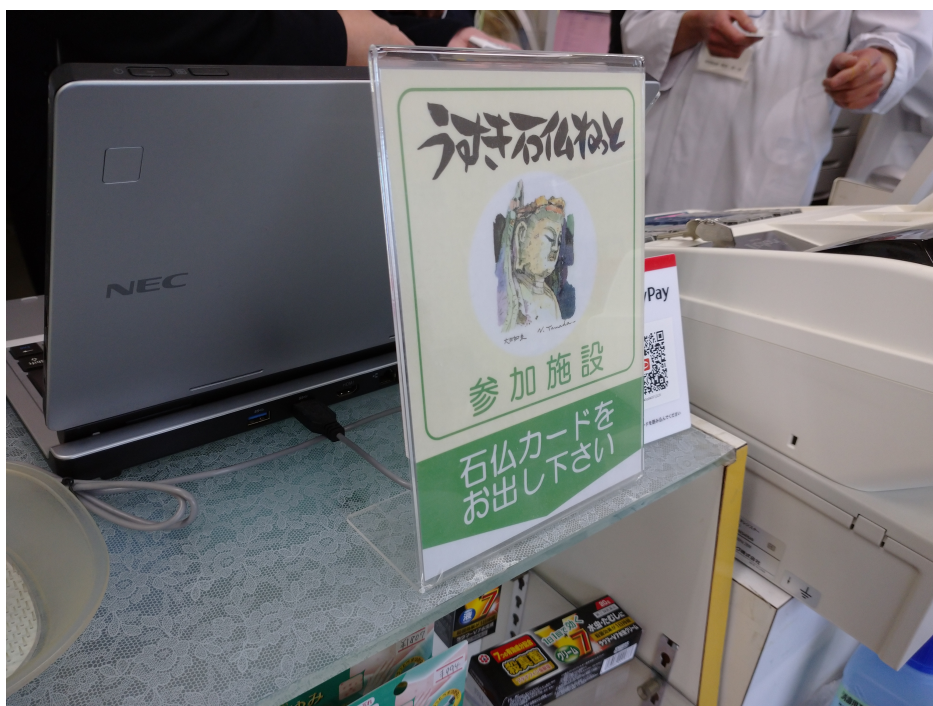
臼杵市消防本部 警防課通信グループ 消防司令補

概要

大分県臼杵市は「市行政」「一般社団法人 臼杵市医師会」「臼杵市医師会立 コスモス病院」が中心になって、地域包括ケアシステムを構築する取り組みを行ってきた。平成20年に稼働した医療・介護に関わる多職種の情報共有ツールである「うすき石仏ねっと」が一つのツールとなっている。

「うすき石仏ねっと」は患者カードを利用したシステムを採用している。まず医療情報の提供に同意した患者は、1人1枚、地域共通IDの入った「石仏カード」(非接触型ICカード：FeliCa)を受け取る。患者は地域の医療機関、歯科医院、調剤薬局、介護事業所(訪問介護を含む)などを利用するときに「石仏カード」を提示することで、各施設は原則として一定期間(60日間)患者の情報を閲覧することが可能になる(救急搬送時、災害時にはカードの提示がなくても情報が開示される)。





多くの患者が「使えば使うほど、医師などに自分の健康状態を正確に知ってもらえ、満足な医療を受けることができる」「初めて診察を受ける医師に病歴などを説明する手間が省ける」と感じているなど利用者の満足度は高いようだ。

かかりつけ医をはじめとする参加各施設、市役所、消防本部による啓発活動も実を結び、住民の同意者数（カード保有者数）は着実に伸びている。令和元年12月現在、21,533人と住民の57%に達する規模となり、地域の医療連携に成果を上げている。

白杵市医師会が中心となり、歯科医師会、薬剤師会、市、消防、市民をまきこんで、取り組みを広げてきた。白杵市医師会には、医療費が高い、高齢化の進行などの問題意識があり、それを解決するために糖尿病の抑制、認知症患者の減少、早期発見などを実現したい具体的な目的があった。そのために、関係者が集まり、議論をし、そのツールとして、うすき石仏ねとが構築されてきている。また、ネットワークを白杵市民の医療と深く関わってきている大分市などを含んだ二次、三次医療圏に広げようとしているほか、薬剤情報や検査情報と健診データなどを患者自身の健康管理に役立てることで医療費の削減効果も期待できるPHR（Personal Health Record）の展開も視野に入れている。

システムの特徴

1.多職種の情報共有を実現する独自システムを構築

全国各地にある医療情報連携ネットワークでは、医療機関ごとに分散していた電子カルテを中心とした診療データを統合・共有するための既存システム（ID-Link、HumanBridgeなど）を利用している場合も多いが、「うすき石仏ねっと」では電子カルテを用いない病院、診療所でも必要な情報の共有ができるようなシステムを独自に構築した。それによって電子カルテ以外の方法で医療情報を管理しているベテランの医師、歯科医院、保険薬局、介護事業者からも情報を得ることができた。

設計上の重要なポイントの一つは参加施設側での入力の手間をできるだけ少なくする仕組みの導入だ。検査データについては複数の検査会社と提携。診療所などで入力しなくても、「石仏カード」の提示があれば検査会社からデータがとれる仕組みを構築した。保険薬局では毎日の業務終了後にレセプトコンピューターをネットワークに接続し調剤情報を共有。現在、歯科医院では、最初に基本的な情報を歯科医師、歯科衛生士が手入力することが必要だが、その後に行われた保険診療については、レセプトコンピューターからCSVファイルを出力して更新できる仕組みを実装したいと考えている。

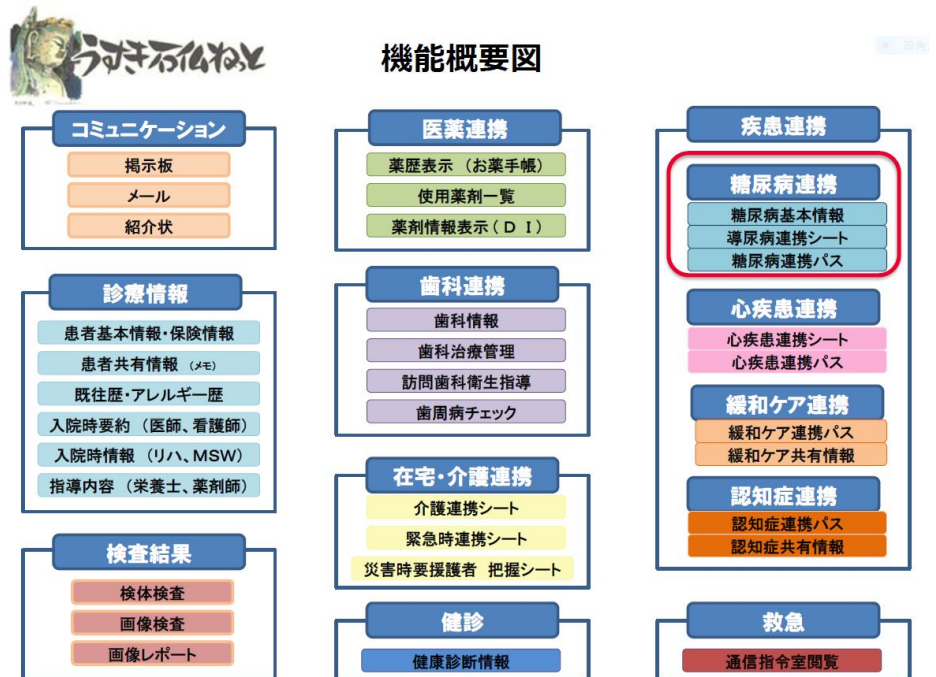
2.低コストで充実した医療連携が可能に

「うすき石仏ねっと」では、医療連携に参加する施設に必要なのは非接触型ICカードリーダー（導入費用は協議会が負担）と石仏ねっと専用PCだけだ。システムへのアクセス権は、原則的として守秘義務を課せられた国家資格を持つ医療従事者のほか、介護分野では看護師やケアマネージャーのいる事業所などに限られている。

3.専用画面で疾病ごとの医療連携を加速

パソコン画面では各職種に必要な情報を集約した「医療連携」「歯科連携」「在宅・介護連携」「救急」などの画面が表示されるほか、疾病ごとに必要な情報を集約した「糖尿病連携」「心疾患連携」「緩和ケア連携」「認知症連携」などの画面で構成されている。

「うすき石仏ねっと」の機能概要図



既往歴・病名

既往歴・病名

低血糖
 出血傾向
 腎機能 G3a

[ログアウト](#)

既往歴・病名

[新規作成](#) [編集する](#) [コピー作成](#)

更新日	医療機関	No.	時期	年齢	病名	治療	備考
2018-07-05	コスモス病院	1		67	ASO(右第5趾切断)	治療	あり
		2		67	右下腿人工血管	5年おきに再手術	
		3		70	糖尿病	治療中	なし
		4		72	高血圧	治療中	なし
		5		73	胃潰瘍	治療	なし
		6		79	胆嚢炎・大腸ポリープ		
		7		80	悪性リンパ腫	抗癌剤	
		8		80	早期胃癌	県立病院にて手術(内視鏡)	
		9		81	前立腺癌		
		10		85	脳梗塞・左大腿骨骨折・下肢血栓	7期介護病院	
		11					
		12					
		13					
		14					
		15					

ケアマネ連携 入院時連携シート

2011 (10003861) 平成 29年9月1日 (25歳)
 性別 黄色 (ウキイロ)

低血糖
 出血傾向
 腎機能

[トップ画面へ](#)
[ログアウト](#)

入院時連携シート

[印刷](#) [新規作成](#) [編集する](#) [コピー作成](#)

登録日	施設	登録者	登録日	入院日	医療機関	登録者
2015-08-10	コスモス病院	管理者	2015年8月10日	2015年8月10日	コスモス病院	管理者 4

情報提供日	2015年8月10日
居宅介護支援事業所	コスモス病院
ケアマネージャー	石井 義哉

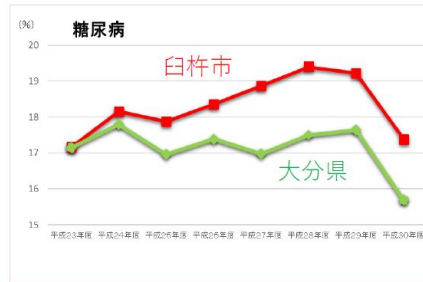
在宅・入院前の状況	
介護度	要支援 1
入院前の症状	入院前の症状を入力
かかりつけ医	植田胃腸科 植田 明徳
特定疾患	特定疾患があれば入力
障害者手帳	身体障害者手帳 2種 1級
服薬管理	自立
食事	自立
食事制限	あり (塩分6g)
水分制限	なし
口腔ケア	自立
環返り	一部介助
座位保持	自立
立位	見守り
移動	歩行器
排泄	自立
入浴	一部介助
衣服着脱	自立
認知症	なし
意思伝達	可
行動障害	なし

■糖尿病連携の例

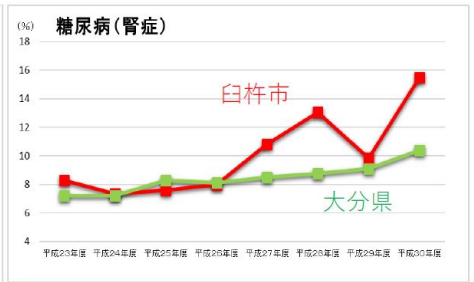
病院と診療所での検査データと栄養指導、歯科受診などの関連項目が時系列に並んだ糖尿病連携パスが自動的に作成され、栄養指導や口腔ケアなど糖尿病管理に不可欠な内容もクリックするだけで参照できる。ただ、患者の意識付けのため、現時点では従来の糖尿病連携手帳も併用しているという。白杵市では高齢化により糖尿病および糖尿病性腎症の有病率は上がっているものの、ネットワークによる医療連携の他、多職種による事例検討会などを定期的に開催し、患者の評価を行ったことで、人工透析の有病率は下がっている。

糖尿病および人工透析の有病率の推移

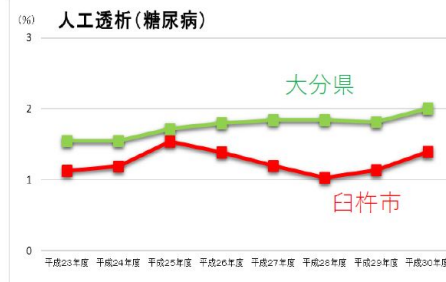
①糖尿病有病率の推移



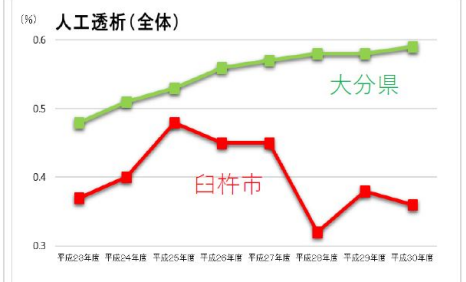
②糖尿病性腎症の推移



③糖尿病のうち人工透析の推移



④人工透析の推移



■認知症連携の例

臼杵市は大分県内でも高齢化が進んでいる地域の一つだ。臼杵市医師会は平成22年に臼杵市、大分大学医学部と連携で「臼杵市の認知症を考える会」を立ち上げた。認知症の予防と早期診断・治療に重点を置いており、そのため「うすき石仏ねっと」ではその活用を図ってきた。具体的には、一般の内科医などでも認知症のスクリーニングに参加できるようにするため、MMSE (Mini-Mental State Examination) やタッチパネル式の簡易検査のスコア、問診票の結果を共有できるようにしている。現在では認知症の診察を専門としない医療機関でも65歳以上の患者に定期的な簡易検査を実施。こうした熱心な医師の取り組みによって、生活改善などにより病気の進行を抑制できる軽度認知障害 (MCI) の段階で専門医に紹介されるケースが増えてきたという。

4.救急医療、災害医療をサポート

「うすき石仏ねっと」参加の同意事項では、救急搬送時や災害時には「石仏カード」の提示がなくても情報の閲覧が可能なこととしている。例えば、大災害のとき人工透析が必要な患者を迅速に把握し必要な医療を提供したり、カードや「お薬手帳」がなくても被災者に処方薬を正確に用意できるほか、遺体の身元確認のために歯科医院が登録した歯科情報 (歯式) を用いることができることを想定している。

歯科情報 (歯式) 画面

診療日	医療機関	登録者
2015-12-09	こながわ歯科	小名川
2015-09-18	こながわ歯科	海士野
2015-08-27	コスモス病院	小野
2015-06-19	矢田歯科	矢田

診療日	2015年12月9日	医療機関	こながわ歯科
主治医	小名川 良輔	登録者	小名川 良輔

		E	D	C	B	A	A	B	C	D	E								
		8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8		
右上	健全歯																	左上	健全歯
	C1~C3 (治療中を含む)																		C1~C3 (治療中を含む)
	半埋伏歯・埋伏 (分かる範囲で)																		半埋伏歯・埋伏 (分かる範囲で)
	CR充填、セメント充填ほか																		CR充填、セメント充填ほか
部分修復	インレー、アンレ																	部分修復	インレー、アンレ
	ー 3/4、4/5冠																		ー 3/4、4/5冠
	歯冠色																		歯冠色
	アマルガム充填																		アマルガム充填
	高洞の形態 (金属修復物のみ記入)																		高洞の形態 (金属修復物のみ記入)
全部修復	全部歯冠修復 (FMCほか)																	全部修復	全部歯冠修復 (FMCほか)
	修前義冠 (HR、MBほか)																		修前義冠 (HR、MBほか)
	HJC、セラミックほか																		HJC、セラミックほか
Br	支台歯 (インプラントも可)																	Br	支台歯 (インプラントも可)
	ボンテック																		ボンテック
	残根・根面板ほか																		残根・根面板ほか
	欠損																		欠損
	義歯 (人工歯あり)																		義歯 (人工歯あり)
	インプラント																		インプラント
	仮歯 (TEK、プロビほか) あり																		仮歯 (TEK、プロビほか) あり
	歯牙あり (状態は不明) 情報なし																		歯牙あり (状態は不明) 情報なし

より市民に身近な存在となっているのは平成27年に運用が開始された消防端末だ。患者による救急搬送依頼を受けるときに消防署通信指令室で情報活用している。患者からの連絡を受けた隊員は氏名、住所、電話番号などを頼りに患者の情報にアクセス。消防端末画面には「既往歴・病名」「かかりつけ医」の他、「救急用アラート項目」として低血糖、出血傾向、認知症、アレルギーが表示される。

例えば、患者が意識を失っているときに低血糖アラートが表示されれば、血糖値の測定やブドウ糖の投与の準備にいち早くとりかかれる。平成28年2月に救急救命士の処置拡大（ブドウ糖投与、CPA前の静脈路確保）が行われており、現場の救急隊員にとっては、こうした情報の重要性が増している。



消防端末画面



救急における具体的な利点

救急における具体的な利点

○救急隊の利点

- 傷病者接触前に隊員間で情報共有ができる
- 傷病者接触前に活動方針をたてることができる
- 症状の原因検索に役立つ
- 搬送先機関の選定に役立つ

○救急における医療機関の利点

- 初診の傷病者に対しても、多くの情報を得ることができる

成功のポイント

地域包括ケアシステムの核となる多職種の情報共有ツールをどう構築するか。医療情報連携ネットワークで先行する自治体の視察を重ね、地域の実情にあった独自のシステムを一から構築したことが成功につながった。

最も重要なポイントは、患者が参加施設に情報共有に対して同意することを「石仏カード」で提示するシステムだ。患者の同意情報を施設間でやりとりする手間が省ける上、参加施設がシステムの導入に必要なものはネットワークに繋がったパソコンとカードリーダーだけであることなど、施設の負担を最小限にしたことで、市内のほとんどの医療機関、保険薬局、介護事業所などが参加することになった。

ネットワークの本格稼働後は、参加医療機関、市役所、消防本部、調剤薬局などによる患者啓発活動が実を結び、同意者数は令和元年12月に市民の過半数に達するなど当初の予想を超えて伸び続けた。60歳以上の伸びがいちばん大きい、10歳未満が増えていることも見逃せない。これはスマートフォンの子育て支援アプリと「うすき石仏ねっと」のデータを連携する仕組みを作ったことが大きい。

同意者や参加施設が増えるたびに「使えば使うほど良い医療を受けられる」という市民のイメージも固まり、さらに参加者が増えるという好循環を生み出している。

運営主体からのこれから医療情報連携ネットワークを構築する方へのメッセージ

医療・介護・保健情報連携ネットワーク“うすき石仏ねっと”は、市民の皆様からも「安全・安心」につながる仕組みとして理解をいただいています。

- ・ 一方向の情報閲覧ではなく、多職種からの情報を多職種が閲覧できる情報共有であること
- ・ 石仏カードによる共有情報の閲覧同意の仕組み
- ・ 救急車要請時や災害時に役立つ仕組み

などが評価いただいているポイントと思います。

市民の皆様は「自分の情報は守りたい」という気持ちと「治療や療養に役立つのなら必要な人には知ってもらいたい」という気持ちがあります。医療情報連携ネットワークを構築する際、だれのために何のために構築するのかを共有することが大切と思います。必要な情報を収集することや閲覧したい情報を参照できる仕組みを構築するのは、医療従事者や介護従事者のためではなく、治療や療養を必要としている方々を守るためだという原点を忘れずに、ネットワークを構築していただければと思います。

[全体概要](#) > [計画Step](#) > [構築Step](#) > [運用Step](#) > [更改Step](#)

[← ピックアップ事例一覧へ戻る](#)

[← TOPへ戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#) 

医療情報連携ネットワークはなぜ必要？

- > 出発点は地域医療を良くしたいという思い
- > 医療情報連携ネットワークの導入効果
- > 利用者の声（導入効果）

医療情報連携ネットワークをどう作る？

- > 医療情報連携ネットワークの構築手順
- > 実施のポイント
- > 利用者の声（苦労した点、成功要因）
- > ガイドライン、書式例など

医療情報連携ネットワークの具体例を見る

医療情報連携ネットワークとは

- > データで見る
- > ピックアップ事例
- > 事例を探す

構築手順

- > 構築手順について
- > Step1：計画
- > Step2：構築
- > Step3：運用

FAQ

- > 用語集
- > お役立ち情報
- > リンク集
- > 資料ダウンロード

> Step4 : 更改

[プライバシーポリシー・免責事項](#) | [お問い合わせ](#) |

Copyright © Ministry of Health, Labour and Welfare, All Right reserved.